学術情報リポジトリ 始動！
ー附属図書館による学術情報の保存と発信ー

学術的な情報の保存･提供機能を担う大学図書館は，図書や雑誌といった紙媒体中心の保存と提供から，各種データベースや電子ジャーナル等，ネットワーク上に展開する電子的学術情報の提供窓口へと，近年加速度的に守備範囲を広げてきました。

そのようななか，附属図書館は，学内で生産され，学内に散在している電子的学術情報（論文，各種データ，電子教材，ソフトウェア等）についても統一的に蓄積し，かつ効果的に内外に発信する枠組みの検討を進めてきました（本誌No.5（2003.1）参照）。

この枠組みを実現するシステムとして，附属図書館は「千葉大学学術情報リポジトリ（仮称）」の開発に着手し，プロトタイプ版（試行版）がすでに完成しています。現在，先生方のご協力により，提供していただいた論文の登録やメタデータ作成を試験的に行い，さらに外部機関と連携したデータ発信実験等を行っています。本年7月に，関係する先生方からなる「学術情報発信に関する協力者会議」を立ち上げさせていただき，さまざまな観点から，千葉大学としての情報戦略を見据えた学術情報の保存と発信のあり方について検討を開始いたしました。

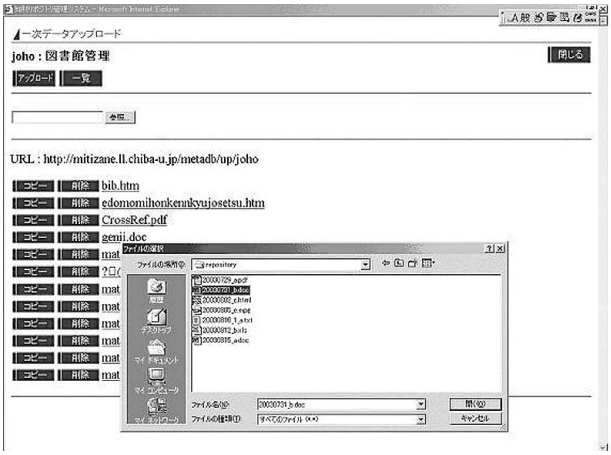

図１　コンテンツ登録画面

このシステムでは，自分が生産した電子的学術情報（具体的にはPDFやWord文書，その他各種フォーマット）の登録が自分の端末から簡単にインターネット経由で行えます（図1）。

学術情報を登録する際には，同時にそのメタデータ（データについてのデータ。タイトル，著者名，解題等からなる。図書館の目録データもその一種）も作成することになります（図2）。ちなみに，このメタデータのフォーマットは，国際規格（ダブリンコア　DoublinCore）に準拠しているため，学術情報流通への貢献が大いに期待されています。目下，附属図書館を中心として，このシステムを平成16年度から暫定運用するべく，操作性の改善，入力指針の策定，画面デザインの調整等を急いでいるところです。

図２　メタデータ登録画面

このようなシステムは欧米の研究機関や政府機関等では徐々に浸透しつつありますが，国内で実用化している機関は未だ皆無に等しく，千葉大学の試みは非常に先進的であると言えるでしょう。将来の国内外諸機関とのメタデータ連携を視野に入れつつ，国内でメタデータ交換の基盤整備を行っている国立情報学研究所等との連携実験を今後とも継続して行きたいと考えています（図3）。

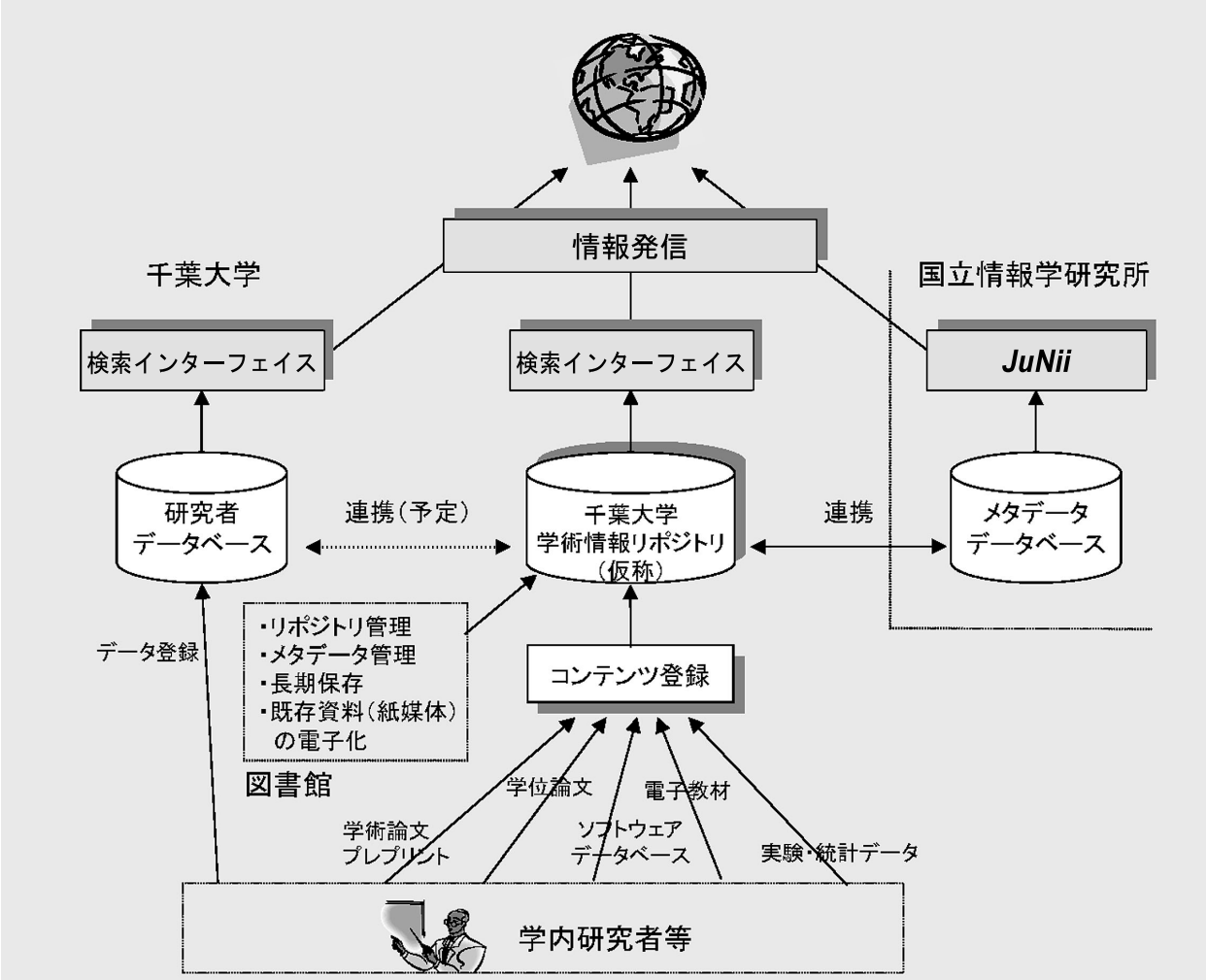

図３　システム概要図

今後，この学術情報リポジトリへのデータ登録等について附属図書館から教官各位のご協力を仰ぐ機会があろうかと思います。本学の貴重な財産である学術情報の保存と発信のため，皆様のご理解・ご支援の程，よろしくお願い申し上げます。